

令和7年度建築科

学部入学試験

出題意図

東京藝術大学美術学部建築科の入学試験は、文章と図で示された立体を印象ではなく正確に捉え描画を行う〔空間構成〕と、与えられた素材から空間をドローイングや文章で表現する〔総合表現〕の2課題で構成されます。

〔空間構成〕（1日目）

この試験は、与えられた文章で定義された立体を、条件に従って構成・表現する力を問うものです。〔設問1〕は条件に従ってできた立体の三面図と平面を転がった軌跡を描く問題でした。この立体は等高重心立体と呼ばれ、平面上をスムーズに転がることで知られています。軌跡を描くことは、この立体の展開図を描くことと同義です。

〔設問2〕は〔設問1〕の展開図と同じ表面積を持つ任意の直方体を〔設問3〕の立体構成をイメージしながら定義する問題でした。

〔設問3〕は、要求された3つの立体を創造的に配置し、素材などの条件に従って描く問題でした。立体Bの形を正確に描写するためには、立体内に内包されている正方形、立体が外接する立方体を意識することが重要です。立体Bの曲面の入れ替わり、立体A1の曲面と平面の混在など、形状の違いやそれぞれの特徴を活かしたダイナミックな描画表現に期待しました。立体A1、立体Bに内包されている正方形に着目し、立体Cの形を効果的に選んで描画表現に繋げた案など、形の特徴を良く理解した上での工夫を高く評価しました。一方、構成は良いにも関わらず、それぞれの立体のプロポーションが正確でない答案が散見されたことは残念でした。

この試験では、例年、立体形状の正確な把握を前提としています。この点には、とくに留意してください。

〔総合表現〕（2日目）

本年度の問題は、ある特徴を持った地形の上に場所を構想し、創造し、表現する、一連の総合的な能力を問いました。気候や風土と一体となる場所をつくり出すという点で、昨年度の問題同様に、馴染みある場所以外の環境への日常的な関心を求めつつも、本年度は複数の条件と素材を与えており、それらをまとめあげる力を問うています。

条件を踏まえた上で自分らしい案を練り上げ、表現力豊かに描くことは、建築を構想する際に問われる大切な能力です。例えば、「水盤」「経路」「居場所」の3つが与えられましたが、各々の造形だけでなく、相互の関係性を考えた案であることや、それらと共に、高低差で分断された崖の上下が水を介してつながる様子が、分かりやすく魅力的に表現されることを期待しました。また、造形スタディによって各素材の特性を見極め、それを活かしつつ的確に見立てることで、新たな創造のきっかけとすることも求めており、スタディを使用した形跡がほとんど見られなかった案があったことは残念でした。

情景やストーリーを重視してもよいし、素材の観察や分析をもとに構成を重視してもよく、

いずれの場合も自身の構想がしっかり伝わるような表現ができているものを評価しています。

なお、建築科ホームページ (<http://arch.geidai.ac.jp/>) に、入試の参考作品及びコメントを掲載しています。

令和7年度の入試については5月頃に公開予定です。
